

# 日本史 B

(解答番号  ~ )

**第1問** SさんとTさんのクラスは、「歴史の論述」の授業に際し、主題を設定し探究した。次の年表甲・乙は、SさんとTさんそれぞれが設定した主題に沿って作成したものである。下の問い(問1～6)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 18)

【年表甲】

主題 時代	Sさんの主題 ( I )
原始	水稲耕作が始まる。
古代	<input type="text" value="A"/> 北陸に東大寺領荘園が置かれる。
中世	<input type="text" value="C"/> ① <u>武田信玄が治水事業を行う。</u>
近世	<input type="text" value="E"/> 印旛沼の干拓事業が失敗する。
近代 現代	<input type="text" value="足尾銅山の近代化"/> 都市郊外に計画的な大規模住宅地が造成される。 <input type="text" value="G"/>

【年表乙】

主題 時代	Tさんの主題 ( II )
原始	九州南部で噴火により集落が壊滅する。
古代	<input type="text" value="B"/> 東北の太平洋側を津波が襲う。
中世	地震により鎌倉大仏が被害を受ける。 <input type="text" value="D"/>
近世	② <u>阿波国を津波が襲う(慶長碑文)。</u> ③ <u>阿波国を津波が襲う(宝永碑文)。</u> <input type="text" value="F"/> 浅間山が噴火し、火砕流の被害が出る。
近代 現代	<input type="text" value="足尾銅山の近代化"/> 関東大震災が発生し、死傷者が多数出る。 <input type="text" value="H"/>

問 1 年表を参考にして、SさんとTさんの主題(Ⅰ)・(Ⅱ)の組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 1

- ① Ⅰ－開発と人々との関係史      Ⅱ－災害と人々との関係史
- ② Ⅰ－災害と人々との関係史      Ⅱ－開発と人々との関係史
- ③ Ⅰ－文化と人々との関係史      Ⅱ－産業と人々との関係史
- ④ Ⅰ－産業と人々との関係史      Ⅱ－文化と人々との関係史

問 2 次の文ア～ウは、SさんとTさんが年表の空欄 A ～ H に入る出来事について調べた文である。文ア～ウと空欄 A ～ H の組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 2

ア 築城技術などを応用することで、大規模な治水が可能となり、大河川流域を安定的に耕作したり、台地上を耕地化できるようになった。

イ 兵庫県を中心に都市を襲う地震が発生した。復興に当たってボランティア活動が盛んに行われ、その重要性が人々に認識されることになった。

ウ 民衆に布教していた僧侶が国家からの弾圧を受けながらも、渡来系技術者集団とともに、灌漑用水池かんがいを整備するなど社会事業を行った。

- |                                                                         |                                                                       |                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| ① ア－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">C</span> | イ－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">G</span> | ウ－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">A</span> |
| ② ア－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">F</span> | イ－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">G</span> | ウ－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">B</span> |
| ③ ア－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">E</span> | イ－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">G</span> | ウ－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">B</span> |
| ④ ア－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">D</span> | イ－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">H</span> | ウ－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">C</span> |
| ⑤ ア－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">E</span> | イ－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">H</span> | ウ－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">A</span> |
| ⑥ ア－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">F</span> | イ－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">H</span> | ウ－ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">D</span> |

## 日本史B

問 3 年表の下線部③のように、戦国大名は様々な方策で領国の振興を図った。Sさんは、この時期の振興策を、いくつかのカードにまとめてみた。クラスの人たちにカードを提示したところ、そのうちの一枚は適当でないとの指摘を受けた。適当でないカードを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

3
---

①

城下町の振興に向けて、楽市令が出され、商人を呼び寄せようとした。

②

家臣同士の争いや領民の争いを防ぐために独自の法整備に努めた。

③

新たな採掘技術や精錬技術を導入して、金山や銀山を開発した。

④

横行した撰銭行為に対し、銭座を設けて貨幣を铸造し、経済の活性化を図った。

問 4 次の写真は、年表の下線部⑬・⑭の津波碑である。一つの岩に J (慶長碑文)・K (宝永碑文)二つの碑文が彫られている。これらの碑文について述べた文として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 4

写真



(徳島県海部郡海陽町所在)

J

南無阿弥陀仏

……大海三度鳴り、人々おおいに驚き、手をこまねくところ、逆浪さかなみしきりに起きる。その高さ十丈、七度来たり、大潮と名ずるなり。……後代のために言い伝う。

K

……地おおいに震え、たちまち海潮湧き出づること一丈余り……。三次反復して止む。しかるに我が浦一人の死者も無し、幸いというべし。後の大震に遭わば、あらかじめ海潮の変をおもいはかり避けよ、則ち可なり。

- ① J・Kの碑文は、どちらも死者を供養するために彫られた。
- ② J・Kの碑文は、この浦の人々に警告を発してきた。
- ③ J・Kの碑文に記されている津波の規模は、ほぼ同じであった。
- ④ J・Kは、民衆が建てた碑なので、文化財としての価値は低い。

## 日本史B

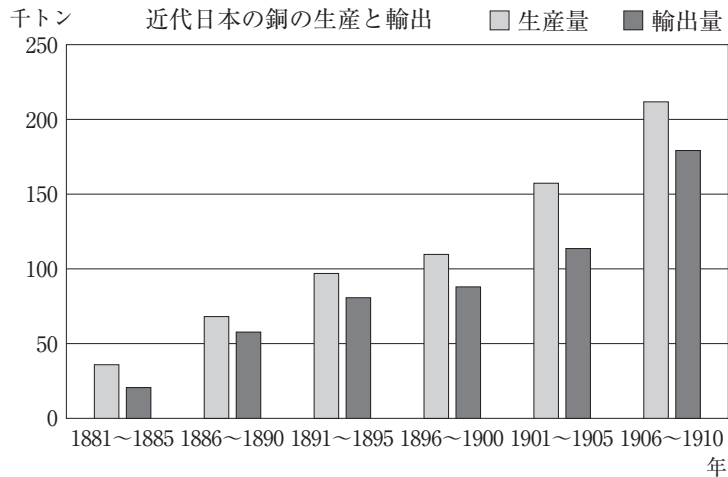
問 5 それぞれ異なる主題について調べていたSさんとTさんだったが、二人の年表で **足尾銅山の近代化** が共通していることに気付いた。そこで、収集した次の資料ア～ウをもとに二人で検討し、次ページの【論述の要旨】をまとめた。【論述の要旨】の空欄 **X** ・ **Y** に入る文 a～d の組合せとして正しいものを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。 **5**

### 資料ア

つとに力を鉱業につくし、足尾銅山をはじめ各所の鉱山をおこし、経営ひろく泰西たいせいの学術を応用し旧来の面目を一新す。産額盛んに増し、販路遠く及び、大に海外の信用を博す。誠に本邦鉱業者の模範とするに足る。その功勞の偉なる、特に感賞すべし。

(『古河市兵衛翁伝』)

### 資料イ



(武田晴人『日本産銅業史』により作成)

### 資料ウ

近年、鉱業上の器械洋式の発達するに従いて、その流毒ますます多く……渡良瀬川に流出して沿岸その害を被らざるなし。……議会において大声疾呼たいせいしつこその救済の策を求むること、ここに十年、しかし政府の当局は常に言を左右にして、適當の措置を施すことなし。

(『田中正造全集』第三卷)

## 【論述の要旨】

資料ア・イをもとに、X ことが分かるが、資料イ・ウから考えると、Y ことにより、深刻な水質汚濁などの問題は継続した。いま重視されているように、環境に配慮しながら生産できればよかったのだが。

- a 鉱業を盛んにし、地域の振興に尽くしたことで、地域住民の信用を獲得できた
- b 西洋技術の導入で銅の生産が増え、多くが輸出されたことで外貨を獲得できた
- c 地域の人々の主張に沿って、政府がこの地域の救済を優先した
- d 鉱毒の被害が訴えられたものの、政府が経済成長を優先した

- ① X — a    Y — c
- ② X — a    Y — d
- ③ X — b    Y — c
- ④ X — b    Y — d

問 6 SさんとTさんは、足尾銅山の近代化について協働して学習したのをきっかけに、二人の主題に対する政府の対応を調べてみると、各時代により違うことに気付いた。時代ごとの特徴を説明した次の文 a～e について、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 6

- a 中央政府の機能が弱く、在地の力で自ら救済することが原則であった。
- b 法律が整備され、大規模工事の際には影響を事前評価する仕組みができた。
- c 河川の修復のため、地方の諸侯にお手伝普請が課せられた。
- d 中央政府の指示により陸・海軍が派遣され、救援に当たった。
- e 中央政府の命令で、郡家(郡衙)の倉から米が施される仕組みがあった。

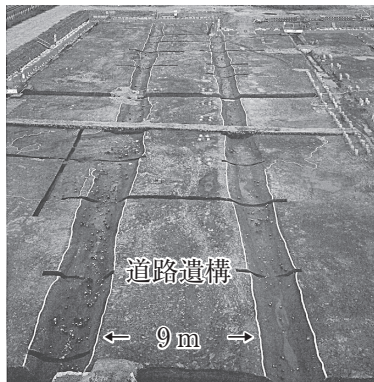
- ① a — e — c — b — d
- ② a — c — e — d — b
- ③ e — c — d — a — b
- ④ d — b — a — e — c
- ⑤ b — e — a — d — c
- ⑥ e — a — c — d — b

## 日本史B

**第2問** 陸上競技の「駅伝」は日本独特のもので、その名称は古代の駅制に由来するという説もある。古代の駅制では、七つの官道(七道)に一定間隔で駅家<sup>うまや</sup>が設けられ、公用の者は駅家に置かれた馬を乗り継いで目的地に達した。古代の官道と付随する諸施設に関する次の問い(問1～4)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 15)

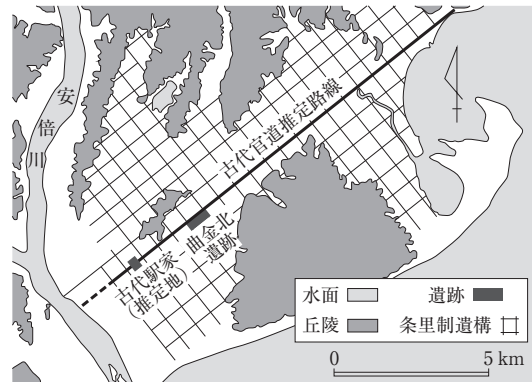
問1 次の写真と地図から読み取れる情報X・Yと、情報から考えられる古代の官道の性格についての考察a～dの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 7

写真



まがりかねきた  
曲金北遺跡(静岡県)

地図



(武部健一『古代の道』により作成)

- X 発見された道路は直線的な道路である。
- Y 官道の推定路線と条里制遺構の一辺とは方位が一致している。
- a 官道は、国府と郡や里を結ぶために造られた。
- b 官道は、中央と地方との情報伝達の速さを重視して造られた。
- c 官道は、都の街路と同じ方位でルートが設定された。
- d 官道は、土地の区画制度の基準と関係している。
- ① X — a      Y — c                      ② X — a      Y — d
- ③ X — b      Y — c                      ④ X — b      Y — d

問 2 播磨国の小犬丸遺跡は、古代の官道跡が見つかるとともに、初めて駅家の構造が発掘調査で分かった遺跡である。次の表と資料を参考に下の問い(1)・(2)に答えよ。

表 小犬丸遺跡の変遷

7世紀以前	湧水地点があり、谷間の一部で水田耕作が行われていた。
8世紀前半	山のふもとに7m幅の道路が存在する。(7mは発見できた道幅)
8世紀後半～10世紀頃	道路は幅を維持したまま使用されている。
11～12世紀	道路部は埋まり、新たに掘立柱建物が建てられる。
13世紀～	掘立柱建物が姿を消し、水田となる。

(『小犬丸遺跡Ⅱ』により作成)

資料 806年に出された勅

勅すらく、「備後・安芸・周防・長門等の国の駅館は、もと蕃客(注1)に備えて、瓦葺粉壁(注2)とす。頃年、百姓疲弊し、修造すること堪え難し。あるいは蕃客入朝するに、便りに海路に従う。その破損は、農閑に修理せよ。……」。

(『日本後紀』)

(注1) 蕃客：外国使節

(注2) 瓦葺粉壁：瓦葺き屋根で白壁であること。瓦を葺かない掘立柱の平屋建物や竪穴住居が一般的な中で、周囲から目立つ存在であった。

(1) 表と資料が表している官道の名称を、次の①～④のうちから一つ選べ。

8

- ① 山陽道      ② 山陰道      ③ 東海道      ④ 中山道

(2) 表と資料から古代の官道制度が衰退した背景として考えられる次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

9

X 官道制度の衰退の背景には、百姓を雑徭などの労役に動員する律令制の変化がある。

Y 官道制度の衰退の背景には、外国使節の交通路の転換がある。

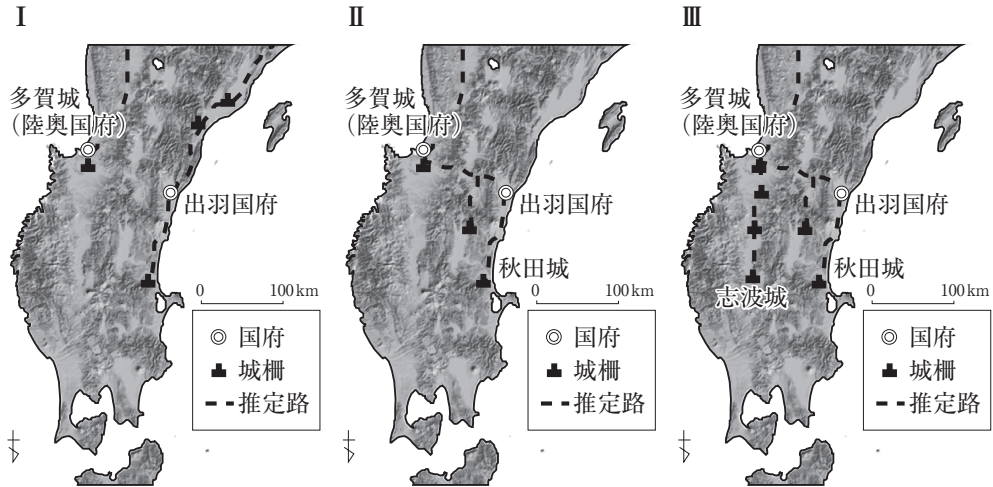
- ① X 正      Y 正      ② X 正      Y 誤  
 ③ X 誤      Y 正      ④ X 誤      Y 誤



## 日本史B

問 3 東北地方の官道や国府・城柵は、「中央政府にとり蝦夷支配の重要拠点であった」が、方位を逆転した次の地図Ⅰ～Ⅲを参考にすれば、「蝦夷にとり中央政府の脅威を象徴するものであった」と見ることもできる。その根拠として、地図から読み取れる情報の中から正しいものをX～Zから選び、選んだ情報と歴史的事実a～cの組合せとして正しいものを、下の①～⑨のうちから二つ選べ。

10 · 11



(群馬県立歴史博物館『古代のみち』, 地理院地図などにより作成)

(注) 地図中, 陰影の薄い部分は平野部を表す。

### 地図から読み取れる情報

- X 中央政府はこの地域には国を設置しなかった。
- Y 中央政府はこの地域の平野部から支配域を拡大していった。
- Z 中央政府はこの地域の太平洋沿岸部に城柵を多く設置した。

### 歴史的事実〔a～cはすべて正しい〕

- a 蝦夷は、しばしば多賀城や秋田城を襲撃の対象とした。
- b 中央政府は、城柵の近くに関東の農民を移住させて開墾を行った。
- c 蝦夷は、独自の言語や墓制などを保持した。

- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| ① X — a | ② X — b | ③ X — c |
| ④ Y — a | ⑤ Y — b | ⑥ Y — c |
| ⑦ Z — a | ⑧ Z — b | ⑨ Z — c |

問 4 古代から近世の日本においては、道路に関(関所)が設けられた。関についての資料Ⅰ～Ⅲと関の機能を説明した文ア～ウを組み合わせ、それを古いものから時代順に並び替えた場合、組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 12

資料Ⅰ 条々

一、関所の事

右、宝戒寺<sup>ほうかいじ</sup>(注1)造営料所として、甲斐国<sup>おひわけ</sup>追分宿の関所を寄進せらるるなり。……

一、関賃銭の事

右、人別に三文、馬においては五文となすべし。……

資料Ⅱ 覚

一、関所を出入る輩、乗物の戸をひらかせ、笠・頭巾をとらせ通すべき事

一、往来の女つぶさに証文引合せて通すべき事

一、相定る証文なき鉄砲は通すべからざる事

資料Ⅲ 太師藤原惠美朝臣押勝の逆謀<sup>ぎやくぼう</sup>、すこぶる泄<sup>も</sup>れたり。……即ち使を遣して三関<sup>(注2)</sup>を固く守らしむ。

(注1) 宝戒寺：鎌倉にある寺院。

(注2) 三関：伊勢国の鈴鹿関，美濃国の不破関，越前国<sup>あらし</sup>の愛発関をさす。

ア 主に軍事的機能を果たした。

イ 主に経済的機能を果たした。

ウ 主に警察的機能を果たした。

① [Ⅰ－イ] → [Ⅱ－ウ] → [Ⅲ－ア]    ② [Ⅰ－ア] → [Ⅱ－ウ] → [Ⅲ－イ]

③ [Ⅱ－イ] → [Ⅲ－ア] → [Ⅰ－ウ]    ④ [Ⅱ－ウ] → [Ⅲ－ア] → [Ⅰ－イ]

⑤ [Ⅲ－ア] → [Ⅰ－イ] → [Ⅱ－ウ]    ⑥ [Ⅲ－イ] → [Ⅰ－ア] → [Ⅱ－ウ]

## 日本史B

**第3問** 次の文章は、ある生徒が書いたレポートの要旨である。これを読んで、下の問い(問1～4)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 15)

日本は海に囲まれている。海を介して外からの波が日本に大きな影響を与えたことが分かる。日本の歴史を見た場合、外からの文明的な波は大きく三つあった。一つ目は7～8世紀で、中国の影響の下に日本の古代国家が成立した。二つ目は①15～16世紀で、中国とともに南蛮諸国からの影響が強かった。そして、三つ目が19～20世紀で、欧米の波というべき時代で、近世から近代へと大きく転換した。

そうすると、②10～14世紀や17～18世紀は、外からの波が少なかった時代ということができる。

問1 下線部①の時代に関連して、「外からの波」を説明するための資料として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 13



①



②



③



④

問 2 歴史には様々な見方がある。下線部①の時代には「外からの波」が少なかったという見方に対する反論として成り立つものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

14

- ① この時代には、海外渡航許可書を持った貿易船が東南アジアに行っており、その交流を通して「外からの波」は少なくなかった。
- ② この時代には、中国に公式の使節が派遣され、先進的な政治制度や文化などがもたらされており、「外からの波」は少なくなかった。
- ③ この時代には、長崎の出島の商館を窓口にして、ヨーロッパの文物を受け入れており、「外からの波」は少なくなかった。
- ④ この時代には、中国との正式な国交はなかったが、僧侶や商人の往来を通して「外からの波」は少なくなかった。

## 日本史B

問 3 このレポートは「外からの波」について書かれているが、視点を国内に変えて見ると様々な変化が起こっている。下線部⑥の時代のうち、13～14世紀の社会・経済に関する次の問い(1)・(2)に答えよ。

(1) 次の資料は、この時代の商業と交通について書かれている。この資料からは読み取れない内容を、下の①～④のうちから一つ選べ。 15

### 資料

凡そ京の町人、浜の商人、鎌倉の誂<sup>あつら</sup>へ物、宰府<sup>さいふ</sup>(大宰府)の交易、室・兵庫の船頭、淀・河尻<sup>とね</sup>の刀禰、大津・坂本の馬借、鳥羽・白河の車借、泊々の借上、湊々の替銭<sup>かえせん</sup>(注1)、浦々の問丸、同じく割符<sup>さいふ</sup>を以て之を進上し、倣載<sup>さいざい</sup>(注2)に任せて之を運送す。

(『庭訓往来』)

(注1) 替銭：為替を組んで送金すること。または、それを扱った商人。

(注2) 倣載：「倣」は「僦」の誤りか。「僦載<sup>しゅうざい</sup>」ならば、車や船を雇って運送するという意味。

- ① 商工業者たちは公家や寺社の保護を受けて活動していた。
- ② 遠隔地間の取引のため、信用手段による決済が行われた。
- ③ 商品の委託や運送を扱う業者が現れた。
- ④ 物資の輸送のため、水上・陸上交通とも盛んであった。

(2) この時代は、単位面積当たりの生産性の向上により収穫が増加したという。このことについて述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。 16

X 二毛作が始まり、土地に養分を供給するために、油粕・糠<sup>ぬか</sup>などの肥料を、金銭を支払って購入するようになった。

Y 鋤・鎌・鋤などの鉄製農具が広く普及し、牛馬の使用が進んだため、田畑を効率よく耕せるようになっていった。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

問 4 下線部④の時代のうち、15世紀についてX・Yのような評価もある。それぞれの評価を根拠付ける情報をXはa・b、Yはc・dから選ぶ場合、評価と根拠の組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

17

評価

X この時代は「政治的に不安定な時代」である。

Y この時代は「民衆が成長した発展の時代」である。

根拠

- a 並立した二つの朝廷を支持する勢力が武力抗争し、また、その一方の内紛などもあって内乱は長期化した。
- b 全国の大名を二分した大乱は終結したが、地方には新たな政治権力も生まれ、地域的な紛争は続いた。
- c 村では、共同の農作業や祭礼を通して構成員同士が結び付いていたが、戦乱に対する自衛で内部の結合を強くしていった。
- d 村では、指導者が多くの書籍を収集して人々に活用させ、儒学を中心とする高度な教育を進めていった。

① X — a Y — c

② X — a Y — d

③ X — b Y — c

④ X — b Y — d

## 日本史B

**第4問** 近世社会では、幕府や藩の教育政策が展開され、庶民生活の中でも寺子屋などを通じて人々の読み書き能力が高まった。そのため多様な資料が社会の諸階層で生み出され、今日、各地の文書館や博物館などで見ることができる。これらの資料に関する次の問い(問1～4)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 15)

問1 近世の村と文書に関する次の資料A・Bについて述べた文a～dについて、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 

18
----

**資料A** 幕府が代官に示した法令

年貢等勘定以下、代官・庄屋に百姓立ち会い相極<sup>きわ</sup>むべく候(決めるべきである)、毎年その帳面に相違これ無しとの判形<sup>はんぎょう</sup>致し(印を押す)おかせ申すべし、何事によらず庄屋より百姓共に非分<sup>ひぶん</sup>申しかけざる様に(不正な言いがかりを付けないように)堅く申し渡すべき事

(『御触書寛保集成』)

**資料B** 信濃国五郎兵衛新田村の百姓が名主を訴えた訴状

村方入用帳(村の会計帳簿)と申すもの天保年中よりこれ無く、百姓代に筆算致させず、すべて自分日記へ付け込み、……(名主以外の村)役人に一切相わからざる様取り計らいの事

(『柳沢信哉家文書』)

- a 資料Aでは、年貢等の勘定に際し、百姓が不正な言いがかりを付けないよう、書類に印を押させることが定められている。
- b 資料Aでは、村で庄屋が年貢等の勘定を行う際には、百姓にも関係書類を見せて公正に行うべきことが定められている。
- c 資料Bから、全村民が各自の日記に村の諸費用を記録し、名主を監視した例があることが分かる。
- d 資料Bから、村で名主が諸費用の勘定を一人で行ったために、名主が訴えられた例があることが分かる。

- ① a・c      ② a・d      ③ b・c      ④ b・d

問 2 俳句も社会の世相を語る資料である。信濃国の百姓で、文化・文政期に活躍した俳諧師の小林一茶は、数多くの俳句を残している。次の問い(1)・(2)に答えよ。

(1) 化政文化に関して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 19

- ① 十返舎一九の著した滑稽本が広く読まれた。
- ② 富士山を題材にした葛飾北斎の浮世絵が人気を博した。
- ③ 近松門左衛門が人形浄瑠璃の脚本を書いた。
- ④ 曲亭(滝沢)馬琴が勸善懲悪を盛り込んだ読本を執筆した。

(2) 次の甲・乙の一茶の俳句とその説明 X・Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 20

- 甲 春風の国にあやかれおろしや船 (「文化句帖」文化元年)  
 乙 さまづけ(様付)に育てられたる蚕かな (「七番日記」文政元年)

X 甲の句からは、外国船の来航が庶民にも伝わっていたことが分かる。  
 Y 乙の句からは、農家の副業として養蚕が重視されていたことが分かる。

- ① X 正 Y 正
- ② X 正 Y 誤
- ③ X 誤 Y 正
- ④ X 誤 Y 誤



## 日本史B

問 3 次の甲・乙は、それぞれ作成目的が異なる近世の絵図である。甲・乙について述べた文X・Yについて、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。 21

甲

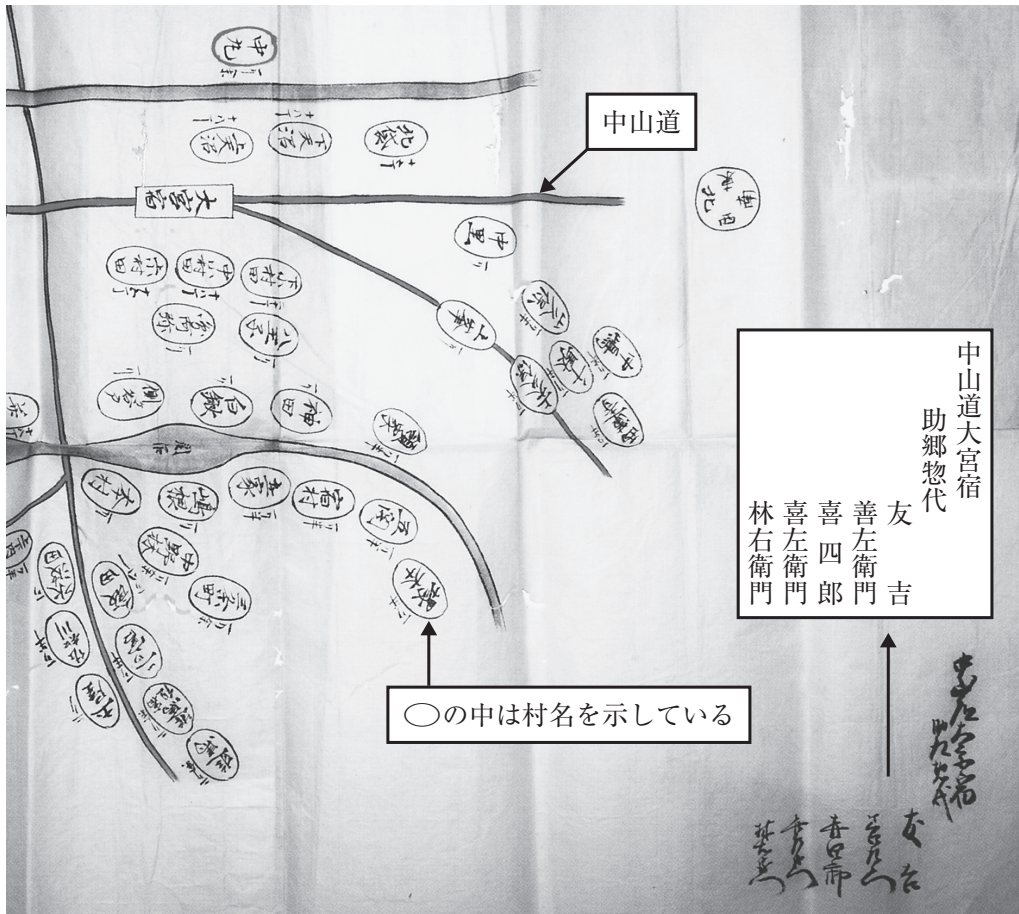


あそぐんかんま  
〔下野国安蘇郡閑馬村絵図〕

(現在の栃木県佐野市)

(注) この絵図は、村から領主に提出するために作成されたものと考えられる。

乙



『中山道大宮宿助郷村絵図』

(現在の埼玉県さいたま市)

(注) この絵図の右下に、助郷役を負担する村の代表の署名がある。

X 甲は山・川・道・耕地・神社など一村全体の概要が示され、村の様子を領主が知るために作成された。

Y 乙は街道・宿場・その周辺の村名などが示され、庶民の物見遊山のために作成された。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

## 日本史B

問 4 次の資料は、近世の幕府の公文書管理に関して、儒学者の荻生徂徠が述べた意見である。a～dの文章を読み、荻生徂徠の意見a、bと、その意見と関係があると思われる政策c、dの組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

22

### 資料

何の役にも留帳とめちよう(注1)これなく、これよろしからざる事なり。大形は(注2)先例・先格をそらに覚えて取扱う故に、覚え違いあるなり。……当時は(注3)その役に久しき人、内証にて(注4)書留をしておく人あれども、面々の手前にて(注5)したる事ゆえ、多くは甚はなはだ秘して同役にも見せず、手前の功ばかりを立てんとす。……留帳ある時は、新役人もその帳面にて役儀やくぎの取扱い相知るる故に、御役仰付けられたる明日よりも役儀勤まるべし。

(『政談』)

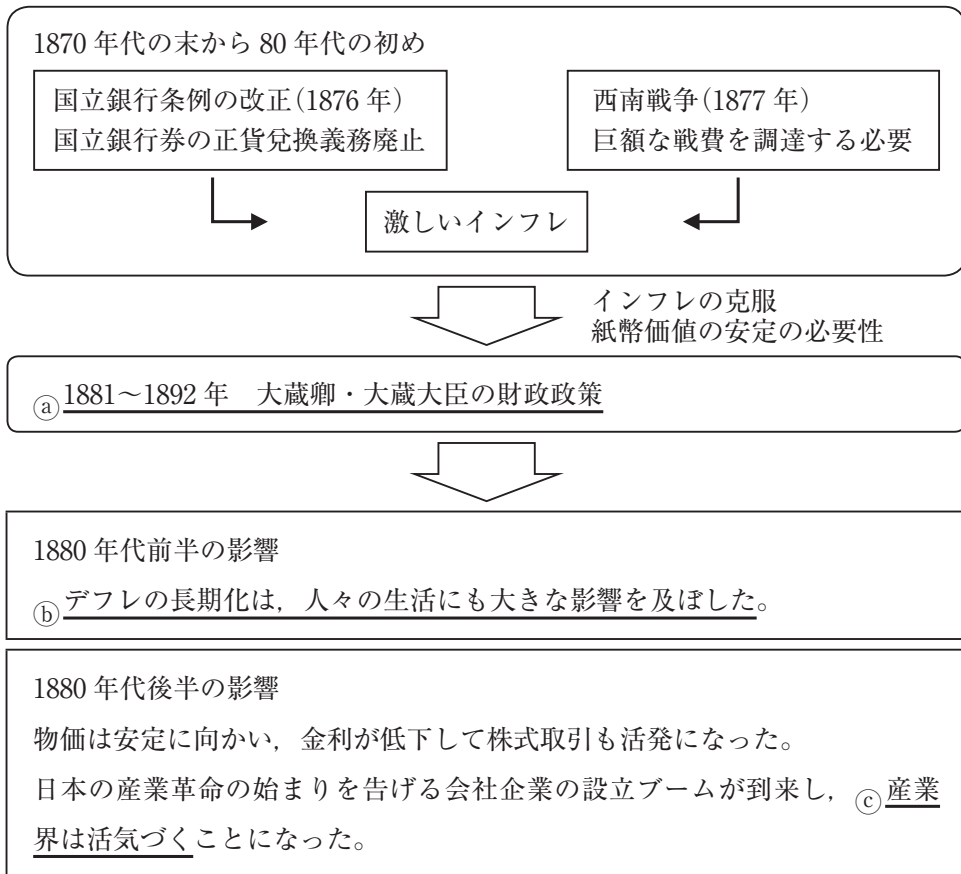
- (注1) 留帳：役所の業務記録，公文書。  
(注2) 大形は：大方は，たいていは。  
(注3) 当時は：最近は，近頃は。  
(注4) 内証にて：内々に，内緒で。  
(注5) 面々の手前にて：それぞれの役人たちが自分で。

- a この資料で徂徠は、留帳がなくても役人は記憶や経験に基づき、問題なく業務を遂行できると述べている。
- b この資料で徂徠は、自分の功績のために作成する書留とは別に、留帳を作成すると、行政効率が上がると述べている。
- c この資料にある徂徠の意見と関わる政策として、新しく人材を登用する足高の制が考えられる。
- d この資料にある徂徠の意見と関わる政策として、庶民の意見を聞く目安箱の設置が考えられる。

- ① a — c      ② a — d      ③ b — c      ④ b — d

**第5問** 近代日本の経済・国際関係に関する次のA・Bの資料や文章を読み、下の問い(問1～5)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 16)

A 次の図はUさんが近代史の学習内容を整理したものである。



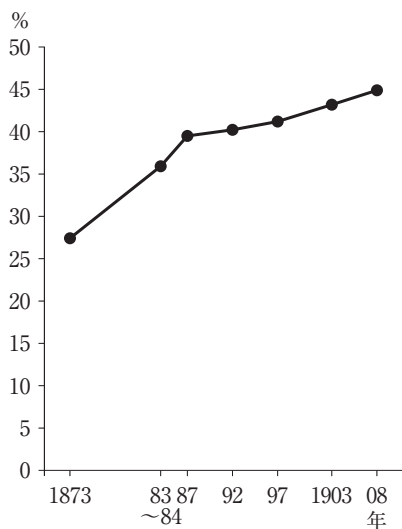
問1 下線部①の政策について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 歳入を増加させるため、地租の引き上げを行った。
- ② 日本銀行を設立し、銀兌換の銀行券を発行した。
- ③ 不換紙幣を処分するために、歳出超過の予算が編成された。
- ④ 緊縮財政がとられたので、軍事費への支出は削減された。

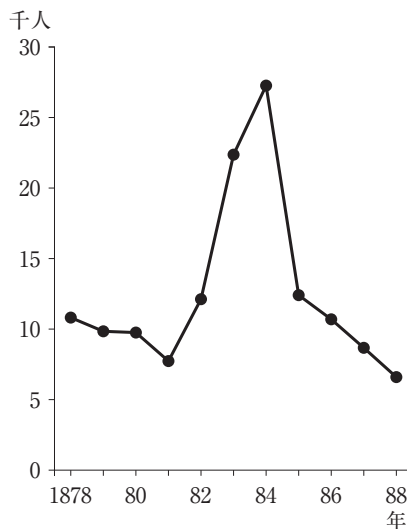
## 日本史B

問 2 下線部⑥を示すデータとして適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 24

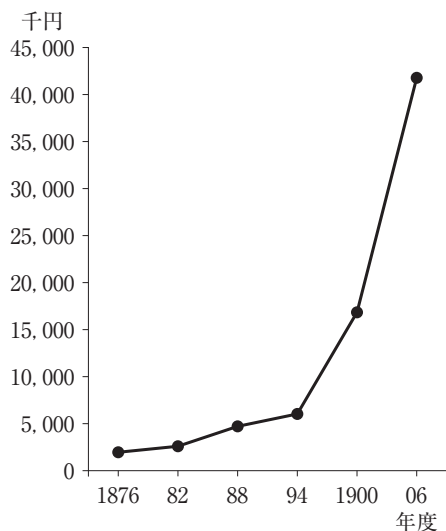
① 小作地の割合(北海道を除く)



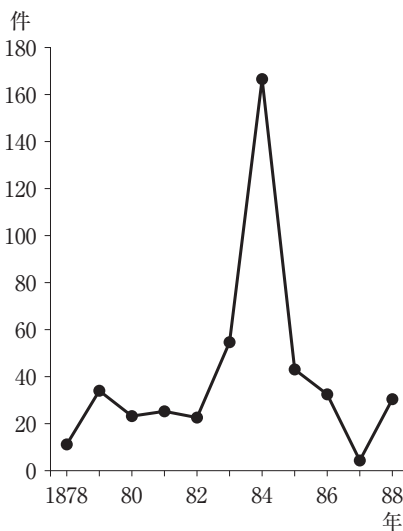
② 破産者の人数



③ 関税収入額



④ 農民騒擾<sup>そうじょう</sup>の発生件数



(三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』, 日本銀行統計局『明治以降本邦主要経済統計』, 青木虹二『明治農民騒擾の年次的研究』により作成)

問 3 下線部㉔に関連して、この時期に勃興した代表的な産業の営業状況を示した次の資料甲・乙に関して述べた文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 25

甲 紡績機械および蒸気機械などは、英国に派遣された技術長が有名なオールドムのプラット社およびヒック社に直接談判し、改良機械を注文した。

(三重紡績会社『第 2 回実際考課帖』)

乙 貨物の収入がこのように増加したのは、線路の延長によって地方物産の価格に変動が生じ、販路が広がったことと、沿線の人々の多くが汽車を便利と感じるようになり、従前の船便を止めて汽車便にするなど、ますます鉄道を利用するものが増えたことによる。

(日本鉄道会社『第 11 回報告』)

X 甲が示す産業の技術導入をめぐる、この企業は主体的でなかった。

Y 乙が示す産業の発達は、国内の物流のあり方に影響を与えた。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

## 日本史B

B Uさんは、日清戦争後の日本について考えるため、1897年にフランス人のピゴーが描いた次の図をもとに調べ、下のメモをまとめた。

図



メモ

台車に乗って大きく描かれているのが日本であり、ナポレオンを気取って多くの人々に台車をひかせて、進むべき道を示している。進むべき行き先は絵の中で示されている。この絵のタイトルは「危険な黄色人種」とされている。

問 4 図と同じ危機意識で描かれたビゴアの風刺画として最も適当なものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。

26

①



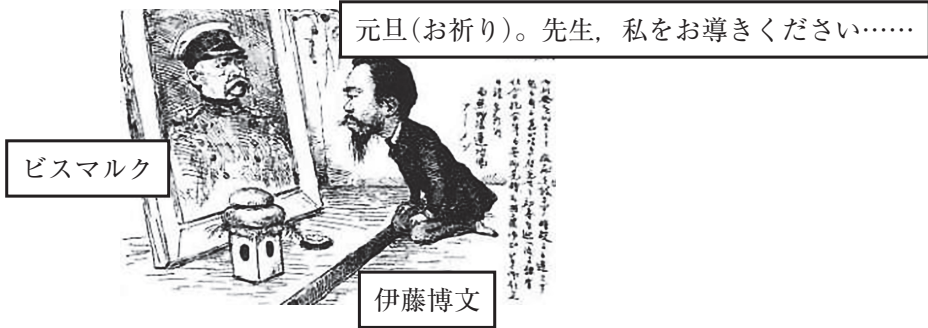
社交界に出入りする紳士淑女

②



アジア帝国

③

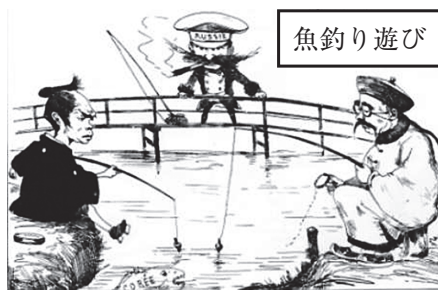


ビスマルク

元旦(お祈り)。先生、私をお導きください……

伊藤博文

④



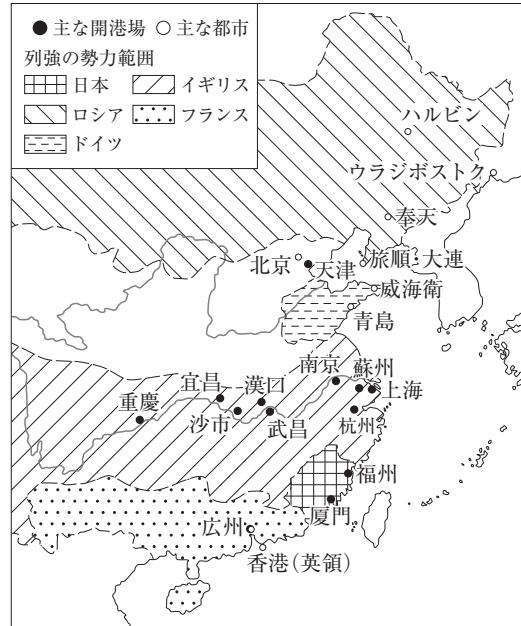
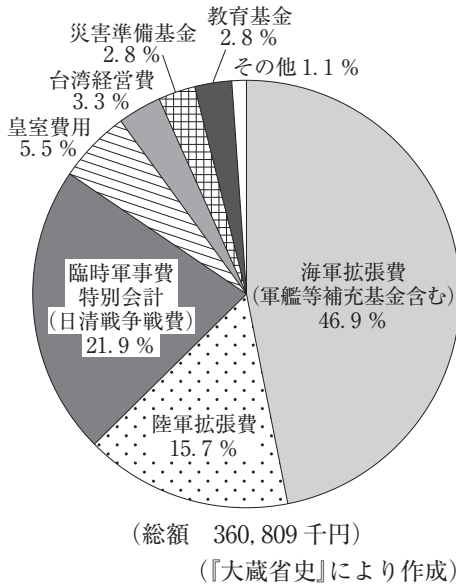
魚釣り遊び



# 日本史B

問 5 次の資料Ⅰ～Ⅳは、日清戦争後の日本や日本と諸外国との関係を示している。資料Ⅰ～Ⅳを参考にして、イギリスが利益を得ることになった下関条約の条項を、下の①～④のうちから二つ選べ。 27 ・ 28

資料Ⅰ 日清戦争の賠償金の使途 資料Ⅱ 主な開港場と列強の勢力範囲(1900年前後)



(濱下武志『世界歴史大系 中国5』などにより作成)  
(注) アヘン戦争後、清国はイギリス・アメリカ・フランスに片務的な最恵国待遇を認めていた。

## 資料Ⅲ

日本の主力艦調達先  
(日清戦争後～日露戦争)

種別	調達先	隻数
戦艦	イギリス	4隻
巡洋艦	イギリス	4隻
	イタリア	2隻
	フランス	1隻
	ドイツ	1隻

(『日本外交文書』により作成)

## 資料Ⅳ

清国の対外借款(日清戦争賠償金関係)

成立時期	借款金額	年利	借款引受国
1895年	4億フラン	4.0%	ロシア・フランス
	(英貨換算 1,582万ポンド)		
1896年	1,600万ポンド	5.0%	イギリス・ドイツ
1898年	1,600万ポンド	4.5%	イギリス・ドイツ

(『日本外交文書』などにより作成)

- ① 清国は朝鮮の独立を認める。
- ② 遼東半島・台湾・澎湖諸島を日本に割譲する。
- ③ 日本に賠償金2億<sup>テール</sup>両を支払う。
- ④ 新たに沙市・重慶・蘇州・杭州を開市・開港する。

**第6問** 近現代史に関するまとめの授業で、時代の転換点を考えてみることになり、Aさん、Bさん、Cさんは、次のような中間発表を行った。それぞれの発表を読み、下の問い(問1～7)に答えよ。(配点 21)

### Aさんの発表

私は、日露戦争での勝利が日本の大きな転換点の一つだと思います。その理由は、日本人の意識に大きな変化があったのではないかと考えたからです。① 夏目漱石の『三四郎』の一節を取り上げたいと思います。この作品の中で漱石は、中学校教師に「こんな顔をして、こんなに弱っては、いくら日露戦争に勝って、一等国になってもだめですね。」と語らせ、「三四郎は日露戦争以後こんな人間に出会うとは思ってもよらなかった。」と書いています。漱石が描いたこの時期は、② 日露戦争後の日本人の意識の変化があったと考えられ、時代の転換点だったと思います。

**問1** 発表に備えてAさんは下線部①について調べた。この人物の説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① 民権論や国権論の高まりの中で、政治小説を著述した。
- ② 近代化が進む中で、知識人の内面を国家・社会との関係で捉えた。
- ③ 都会的感覚と西洋的教養をもとに、人道主義的な文学を確立した。
- ④ 社会主義運動の高揚に伴って、階級理論に基づいた作品を残した。

## 日本史B

問 2 Aさんの発表をきっかけに、クラス内で下線部⑥の捉え方について再度調べてみることになった。その結果、次の甲・乙の二つがあることが分かった。甲・乙とそれぞれの根拠として考えられる歴史的な出来事ア～エの組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 30

甲 戦争に勝利して、明治維新以来の課題が克服され、日本も近代的な国家になったという意識が大きくなった。

乙 莫大な対外債務を背負い、重税にあえいでいる民衆は、戦争の成果に満足せず、政治への批判的意識が高まった。

ア 農村では旧暦も併用されるなど、従来と変わらない生活が続いていた。

イ 八幡製鉄所の経営が安定し、造船技術が世界的水準となるなど重工業が発達した。

ウ 戊申詔書を発布して、国民に勤労と儉約を奨励し、国民道徳の強化に努めた。

エ 新聞・雑誌などが激しく政府を批判したので、新聞紙条例を発布して取り締まった。

① 甲—ア 乙—ウ

② 甲—ア 乙—エ

③ 甲—イ 乙—ウ

④ 甲—イ 乙—エ

## Bさんの発表

私は、大正から昭和初期にかけての文化の大衆化を大きな転換点と考えました。その理由は、文化の大衆化が、今日の政治思想につながる◎吉野作造が唱えた民本主義を人々に広め、いわゆる「憲政の常道」を支える基盤を作ったと考えたからです。この時期に  ことを背景にして、新聞や総合雑誌の発行部数の急激な増加、円本の発刊など、マスメディアが発達し、社会運動が広がることに結び付くと考えました。

問 3 Bさんの発表の空欄  に入る文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 小学校教育の普及が図られ、就学率が徐々に上昇した
- ② 啓蒙思想の影響で欧化主義などの傾向が現れた
- ③ 洋装やカレーライスなどの洋風生活が普及した
- ④ 中等教育が普及し、高等教育機関が拡充された

問 4 Bさんの発表に対して、下線部◎を転換の理由とすることに疑問が出された。そこでBさんがさらに調べたところ、吉野の理論について、現在の日本国憲法の基本原理と比較すると時代的な限界があることが分かった。その時代的な限界を示す吉野の言葉の要約を、次の①～④のうちから一つ選べ。

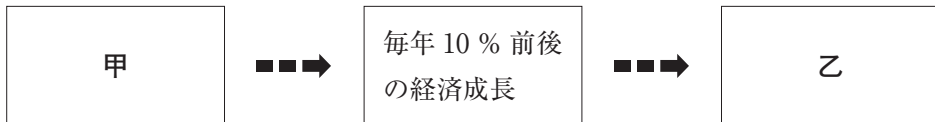
- ① 民本主義は、国民主権を意味する民主主義とは異なるものである。
- ② 民本主義は、日本語としては極めて新しい用例である。
- ③ 民本主義は、政権運用の方針の決定が民衆の意向によるということである。
- ④ 民本主義は、民衆の利益や幸福を求めるものである。

## 日本史B

### Cさんの発表

私は、1960年代を大きな転換点と考えました。1960年に岸内閣に代わった池田内閣が「国民所得倍増計画の構想」を閣議決定し、「今後10年以内に国民総生産26兆円に到達することを目標」としました。その結果、① 経済が安定的に成長する時代を迎えると同時にその<sup>ひず</sup>みも現れました。この時期には社会全体も大きく変化しました。例えば Y。こうした変化から私は大きな転換点と考えました。

問5 下線部①について、その因果関係をCさんは、次のような図を作って発表することにした。甲・乙に入る語句の最も適切な組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 33



- 甲 ア マイクロエレクトロニクス技術の導入などによる内需拡大  
イ 技術革新に伴う大企業の膨大な設備投資
- 乙 ウ 公害の発生  
エ バブル経済の出現

- ① 甲—ア 乙—ウ                      ② 甲—ア 乙—エ  
③ 甲—イ 乙—ウ                      ④ 甲—イ 乙—エ

問6 Cさんの発表の空欄 Y に入る文として **適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 34

- ① 農村では、大都市への人口流出が激しくなり、農業人口が減少しました  
② 生活様式が画一化し、多くの人々が中流意識を持つようになりました  
③ 高校・大学への進学率が上昇し、高等教育が広がりました  
④ 円高の進行で、アジアなどに生産拠点を移す産業の空洞化が進みました

問7 Aさん、Bさん、Cさんの発表に対して、賛成や反対の意見が出された後、ほかにも転換点はあるのではないかという提案があり、次の①・②があげられた。あなたが転換点として支持する**歴史的事象**を次の①・②から一つ選び、その**理由**を下の③～⑧のうちから一つ選べ。なお、**歴史的事象**と**理由**の組合せとして適当なものは複数あるが、解答は一つでよい。

あげられた**歴史的事象**

35

① ポツダム宣言の受諾

② 1945年の衆議院議員選挙法改正

理由

36

- ③ この宣言には、経済・社会・文化などに関する国際協力を実現するための機関を創設することが決められていたから。
- ④ この宣言には、共産主義体制の拡大に対して、日本が資本主義陣営に属することが決められていたから。
- ⑤ この宣言には、日本軍の武装解除など、軍国主義を完全に除去することが決められていたから。
- ⑥ 従来、女性の選挙権は認められてきたが、被選挙権がこの法律で初めて認められるようになったから。
- ⑦ 初めて女性参政権が認められて選挙権が拡大するとともに、翌年多くの女性議員が誕生したから。
- ⑧ この法律により、女性が政治集会を主催したり参加したりすることが可能になったから。